

クジラ・イルカを通じた自然環境学習の実施報告書

平成23年3月25日

特定非営利活動法人 宮崎くじら研究会

目次

1	ザトウクジラ骨格組立体験学習会	1
2	ザトウクジラ骨格展示	1
3	講演1 演題：奈須敬二先生の思い出語る	2
4	講演2 演題：カンムリウミスズメの生態	2
5	講演3 演題：宮崎のイルカについて	2
6	体験学習：門川の魚を見て、触れて学ぶ	2
7	イルカ・カンムリウミスズメウオッチング	3
8	紙芝居作成		
	・「くじら島」	3
	・「くじら少年」	3
	・「くじらとカンムリウミスズメの物語」	3
9	付録		
	内容1 紙芝居脚本		
	・「くじら島」	5
	・「くじら少年」	6
	・「くじらとカンムリウミスズメの物語」	8
	・紙芝居画優秀賞氏名一覧	10
	内容2 写真集	11
	内容3 新聞報道の写し	20
	内容4 イルカ・カンムリウミスズメウオッチング航跡図	26

要約

海、漁業とのかかわり深い門川地域における、海の暮らし、クジラ・イルカとカンムリウミスズメをモチーフにした海と自然を生かす活動を啓発する紙芝居、題名「くじら島」、「くじら少年」、「くじらとカンムリウミスズメ物語」3作、作成した。

また、門川町で堀上げたザトウクジラの骨格標本を、平成22年(2010年)8月22日、門川漁業協同組合会議室で地元門川町小学生を対象とし、ザトウクジラ骨格組み立て体験を実施した。組み立てたザトウクジラ骨格は、引き続き、門川漁業協同組合で2週間、平成22年8月23日～9月5日、14日間展示した。展示期間中見学者の総数は、1,314人であった。イルカ・カンムリウミスズメウオッチングを実施した。イルカは観察出来なかった。カンムリウミスズメを7羽観察出来た。また、門川の魚を見て、触れて学ぶ学習会、奈須敬二先生の思い出語る、カンムリウミスズメの生態について、宮崎のイルカについての講演会を実施した。

目的

門川町、沖合7kmに浮かぶ枇榔島周辺海域には、カンムリウミスズメ、時折出没するクジラ・イルカの生息が見られ自然がそのまま引き継がれている。このことから、門川町におけるクジラ・イルカ・カンムリウミスズメを守る活動、環境を守る大切さを推進し、門川町の新たな観光拠点作りに寄与することを目的とした。

方法および結果

① ｱ) ザトウクジラ骨格組立体験学習会(写真1～3)

平成17年(2005年)2月、門川町沖合に漂流したザトウクジラ(体長8.7m)は、門川町乙島に埋設された。その後、平成20年(2008年)5月31日、骨格を掘り上げ平成21年(2009年)3月、骨格標本が完成した。今回、NPO宮崎くじら研会は、県総合博物館に収蔵されているザトウクジラの骨格を、平成22年(2010年)8月22日、門川漁業協同組合会議室に運搬した。地元門川町小学生を対象とし、ザトウクジラ骨格組み立て体験を実施した。

日時：平成22年8月22日(日)午後1時～

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末8807-60 門川漁業協同組合会議室

対象者：地元門川町小学生24名

学習内容：くじら骨格組立体験学習 頸椎から尾椎まで、45個の骨格を組み立てた。前鰭を4人がかりで運んだ。クジラの骨格が大きいけれども思いのほか軽いことを体験した。頭骨の大部分は顎の骨であること、首の骨は平たく、密着していることなどを学習した。

ｲ) ザトウクジラ骨格展示(写真4～6)(表1)

日時：平成22年8月23日～9月5日(14日間)午前9時～午後5時30分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末8807-60 門川漁業協同組合会議室

展示状況：総入場者数は、1,314人であった。内訳は、子供、583人、男性大人、342人、女性389人であった。最も少ない日は、8月23日(月)の28人、最も多かった日は、8月31日(火)の185人であった。これは、門川小学校4年生3クラスが見学したものによる。

② 7) 講演 1

演題：奈須敬二先生の思い出語る（写真 7）

日時：平成 22 年 1 月 5 日（日曜日）午後 1 時～3 時 50 分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

講師：佐土原くじら会 会長 池田 仁志

対象者：地元門川町小学生 40 名

講演要旨：故奈須 敬二先生がくじらのぼり、くじらたたみのデザインについてアドバイスしたエピソードを紹介した。また、海洋学者でもある奈須先生は、地球環境を守るため身近な河川を汚さない活動、森の保全活動などを推奨、佐土原くじら会の活動として定着したことを語った。

1) 講演 2

演題：カンムリウミスズメの生態（写真 16）

日時：平成 22 年 2 月 13 日（日曜日）午後 1 時～3 時 50 分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

講師：宮崎大学フロンティア科学総合センター 中村 豊

対象者：地元門川町小学生、父兄 26 名

講演要旨：カンムリウミスズメの生態について、枇榔島に集まるカンムリウミスズメに標識を付けて放鳥、再捕を 20 年継続調査している。再捕結果から年齢が 7～8 年ことが推測された。どこから来て、どこへ行くのか謎が多いカンムリウミスズメである。

2) 講演 3

演題：宮崎のイルカについて

日時：平成 22 年 2 月 13 日（日曜日）午後 1 時～3 時 50 分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

講師：NPO 宮崎くじら研究会 栗田 壽男

対象者：地元門川町小学生、父兄 26 名

講演要旨：本県でこれまでに漂着したイルカは、ハンドウイルカ、スジイルカ、ハセイルカ、マダライルカ、ハシナガイルカである。いずれも、漂着したことから種類が判明した。洋上でみるイルカの種類は難しい。イルカがジャンプした時の胸鰭、背鰭、模様等の特徴で写真撮影し専門家に見てもらうことが必要である。本県では枇榔島周辺でのイルカ情報が多いため枇榔島周辺でのイルカウォッチングの可能性を検討している。

③ 課題：門川の魚を見て、触れて学ぶ（写真 8, 9）

日時：平成 22 年 1 月 5 日（日曜日）午後 1 時～3 時 50 分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

講師：NPO 宮崎くじら研究会 栗田 壽男、門川漁業協同組合 参事 黒木 清幸

対象者：地元門川町小学生 40 名

学習内容：門川町出身のくじら博士、奈須 敬二先生が少年時代に関心を示した魚類、エビ、カニ類を準備した。直接、魚、エビ、カニ類に触れて、名前が付いたバットに分類する体験学習を行った。

④ **イルカ・カンムリウミスズメウオッチング (写真13～15)**

日時：平成22年2月13日（日曜日）午後1時～3時50分

場所：東臼杵郡門川町、枇榔島海域

船舶：朝戎丸、第二優成丸

対象者：地元門川町小学生、父兄 26名

応募で参加があった親子、講師、学生を含め子ども16人（小学校2～6年生）、大人18名を2隻の漁船に分乗、2回に分けてウオッチングを実施した。

イルカの出現はなかった。

カンムリウミスズメは2～7羽ウオッチングが出来た。カンムリウミスズメの特徴である頭部の白い文様が直に観察出来た。

海況が穏やでないとカンムリウミスズメの発見は容易でないことがわかった。

枇榔島の岩場と、カンムリウミスズメのひなが岩場から海に降りることを重ねると自然の厳しさが実感出来た。また、2月期でのカンムリウミスズメウオッチングは可能であることが分かった。

⑤ **紙芝居作成**

ア) 「くじら島」

日時：平成22年8月22日（日）午後1時～

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

作成者：地元門川町小学生 24名

講師：紙芝居作成指導 福岡市博物館 主任学芸員 鳥巢 京一

補助者：宮崎大学野生動物研究会（通商 wila）5人

イ) 「くじら少年」(写真10～12)

日時：平成22年12月5日（日曜日）午後1時～3時50分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

作成者：地元門川町小学生 40名

講師：紙芝居作成指導 福岡市博物館 主任学芸員 鳥巢 京一

補助者：宮崎大学野生動物研究会（通商 wila）3人

ウ) 「くじらとカンムリウミスズメの物語」(写真17～18)

日時：平成22年2月13日（日曜日）午後1時～3時50分

場所：東臼杵郡門川町大字門川尾末 8807-60 門川漁業協同組合会議室

作成者：地元門川町小学生 16名

講師：紙芝居作成指導 福岡市博物館 主任学芸員 鳥巢 京一

補助者：宮崎大学野生動物研究会（通商 wila）5人

表1 ザトウクジラ骨格展示入場者数、日別集計表														日時:平成22年8月23日~9月5日	
														場所:門川漁業協同組合会議室	
														展示時間:午前9時~午後5時30分	
月日	曜日	午前				午後				全日				合計	備考
		子供	大人	女性	小計	子供	大人	女性	小計	子供	大人	女性	小計		
8月23日	月	2	5	4	11	1	14	2	17	3	19	6	28	28	
8月24日	火	34	20	30	84	6	18	31	55	40	38	61	139	139	門川保育園
8月25日	水	0	2	2	4	5	10	26	41	5	12	28	45	45	門川養護教室
8月26日	木	4	10	5	19	11	7	12	30	15	17	17	49	49	
8月27日	金	4	7	8	19	22	15	13	50	26	22	21	69	69	
8月28日	土	21	10	13	44	24	30	39	93	45	40	52	137	137	
8月29日	日	11	11	10	32	54	49	33	136	65	60	43	168	168	
8月30日	月	4	4	6	14	21	5	12	38	25	9	18	52	52	
8月31日	火	122	9	4	135	17	20	13	50	139	29	17	185	185	門川小学校4年1,2,3組
9月1日	水	1	7	3	11	8	11	4	23	9	18	7	34	34	
9月2日	木	1	3	5	9	12	10	7	29	13	13	12	38	38	
9月3日	金	78	6	10	94	10	12	12	34	88	18	22	128	128	門川小学校3年
9月4日	土	17	8	13	38	41	12	32	85	58	20	45	123	123	門川幼稚園
9月5日	日	14	8	6	28	38	19	34	91	52	27	40	119	119	
小計		313	110	119	542	270	232	270	772	583	342	389	1314	1314	

付 録

内容 1 : 紙芝居脚本「くじら島」「クジラ少年」「くじらとカンムリウミスズメの物語」

内容 2 : 写真集

内容 3 : 新聞報道の写し

内容 4 : イルカ・カンムリウミスズメウオッチングのGPS航跡図

紙芝居 1 題名 「くじら島」

脚本：鳥巢 京一

1 [タイトル：前書き] [2670年前の門川町から高千穂を望む鳥瞰図]

今から2670年前、神武天皇（じんむてんのう）が初代（しょだい）の天皇（てんのう）になったところのお話です。

2 [高千穂の山山をバックに神武さま]

むかしむかし、神武さまは、日向（ひむか）の地に住んでおりました。

3 [45歳（さい）になった神武（じんむ）さまと兄弟やこどもを集めるシーン]

45歳になった神武さまは、兄弟やこどもたちを集めました。

4 [神武さまが兄弟やこどもたちにはなしをするシーン]

神武さまは、はなしはじめました。

「日向の地は、日本の西辺にあたり、全土（ぜんど）をおさめているわけではない。

聞けば、東に美しい地があるというではないか。

青い山が4周（よんしゅう）にあり、その地がまさに天下（てんか）を治めるにふさわしいと確信（かくしん）するにいった。

よって、その地を都（みやこ）とすべくたちあがるのだ。」と。

兄弟（きょうだい）やこどもたちはみな、賛成（さんせい）しました。

5 [5隻の軍船（ごせきのぐんせん）を率いて（ひきいて）出港（しゅっこう）する神武さま]

神武さまは、5隻の軍船（ごせきのぐんせん）を率いて（ひきいて）日向の美々津（みみつ）をしゅっぱつしました。

6 [軍船（ぐんせん）のまえにあらわれた1頭（いっとう）のくじら]

すると、門川のおきあいで、1頭（いっとう）のくじらにであいました。

7 [神武さまがくじらをめがけて銚（もり）を投げようとするシーン]

神武さまは、自ら（みずから）銚（もり）をもってくじらを捕らえ（とらえ）ようとしました。

8 [女性が神武さまに頼むシーン]

突然（とつぜん）、軍船（ぐんせん）の後方（こうほう）から女性の声が聞こえてきました。

その女性は、神武さまに頼（たの）みました。

私は、北の海から子どもを産む（うむ）ためにここにやってきました。産む（うむ）まで見逃（みぬ）してください。」

9 [軍船（ぐんせん）の横に、大きなくじらのしっぽが現れるシーン]

そこで、神武さまは、その女性に約束（やくそく）しました。

「あいわかった。銚（もり）をうつのはやめよう。」

すると、その女性は、どこともなくきえていきました。

10 [荒波（あらなみ）の日向灘（ひゅうがなだ）の軍船（ぐんせん）]

日向灘（ひゅうがなだ）で進路（しんろ）をはばまれておりました。

1 1 [神武さまと女性が話すシーン]

ある日突然（とつぜん）、神武さまの前に子どもを抱いた（だいた）女性があらわれ、いいました。

「そのせつは、ありがとうございます。」

このように元気な子どもを産む（うむ）ことができました。

まだ子どもですが、海のことはよくわかります。

この子を水先案内役（みずさきあんないやく）としてお使い（つかい）ください。

そう言うと、その女性はちからつきてしまいました。

1 2 [軍船（ぐんせん）の横（よこ）に子くじら小さいしっぽが見えるシーン]

神武さまは、その女性を抱きかかえ（だき）、やさしく海にいれてやりました。

1 3 [神武さまが、棒（ぼう）でくじら島をつくるシーン]

そこで、神武さまは、このやさしい心（こころ）をもつくじらが、この地（ち）にいたことをいつまでも伝え（つたえ）ようと、海に向かって（むかって）棒（ぼう）で、

「エーイ！エエーイ！」

と呪文（じゅもん）を唱えて（となえて）、親子（おやこ）くじらがつれそって泳いでいる（およいでいる）形（かたち）の島（しま）をつくりました。

1 4 [くじら島が完成]

神武さまは、この島（しま）を「美女ヶ島」（「びじょがしま」）と名付け（なづけ）ました

1 5 [おしまい][夕日のなか進む軍船（ぐんせん）、小さいくじら島 遠景（えんけい）]

瀬戸内海（せとないかい）を東（ひがし）に進み（すすみ）、大和（やまと）を平定（へいて）初代天皇（しょだいてんのう）になりました。

註 ① 神武天皇・・・45歳のとき、軍船を率いて日向（現在の宮崎）を出発し、瀬戸内海を東に大和を平定します。その後、橿原宮（かしはらぐう）で天皇の即位式をして、初代天皇になる。

② ひむかのくに・・・現在の宮崎県。③ 大和国（やまとのくに）・・・現在の奈良県

紙芝居2 題名 「クジラ少年」

脚本 鳥巢京一

1 [タイトル： 前書][昭和初めの門川町の風景]

海洋学者（かいようがくしゃ）で名を成した奈須敬二先生（な すけいじ）（1931～1996）の波瀾万丈（はらんばんじょう）の物語です。

2 [奈須少年が生まれたシーン]

奈須少年（な すしょうねん）は、宮崎県日向灘（ひゅうがなだ）に面した尾末湾（おすえわん）を望む家で生まれました。

「オギャー、オギャー！」

「オギャーア！」

3 [5歳の奈須少年が門川の海で泳ぐシーン]

夏になると、いつも奈須少年は海で泳ぎました。

お母さんが、

「はよ！ もどっど！」

「はよー！ もどっどー！」

と言うまで、帰ろうとはしませんでした。

4 [港口（みなとぐち）の沖の大敷網（おおしきあみ）を揚げに出かける奈須少年]

小学3年生になった奈須少年は、学校が休みになると朝と夕方、大敷網（おおしきあみ）を揚げにいきました。

漁師が言いました。

「奈須！ 奈須！ しっかり網をたぐらんか！」

すると、奈須少年は、

「はい！」

と言って頑張るのでした。

5 [船の上でさまざまな魚たちがはねるシーンをみる奈須少年]

大敷網の網を揚げる仕事は、子どもにとって、たいへん重労働であった。

しかし、網を揚げ終わり、さまざまな魚たちが、船の上ではねまわる様子を
目にしたとき、疲れは吹っ飛んだ。

そして、奈須少年は目をキラキラ輝かせながら、

「あの口がとがった魚は？」

あれは？？ この魚は？？？ なんじゃこら！ 」と聞くのでした。

6 [奈須少年が漁船の舵をとるシーン]

小学5年生になった奈須少年は、家の近くに住む坂本幸太郎さんという漁師にたいへん
可愛がられた。

その漁師は、奈須少年をよく沖につれていきました。

そのとき、漁師は、奈須少年に舵をとらせてくれました。

7 [船の上で話しをする漁師と奈須少年]

ある日、漁師は、

「わらは、海がほんじゃまこち好きだね。」

といいながら、カツオ釣りの話をするのでした。

「カツオを釣るには、まず海鳥を発見するんじゃ。」

すると奈須少年が、

「そりゃ、なして？」というと、

漁師は、

「それはの、カツオと海鳥の餌が同じじゃからよ。

海鳥が多いときは、カツオも多いんじゃじー。」と答えました。

8 [門川の港に上がったクジラを見入る奈須少年]

また、門川の港にはよくクジラが水揚げされました。

奈須少年が、クジラをはじめてみたのは、小学2年生のときでした。

港に上がったクジラをみて、ビックリです。

「何だ！ てっげ！ ふて～！

上顎にならぶコブは何かんしれんねー！？」

そうして、奈須少年は海と魚のとりこになり、もっともっと多くのことを学びたいと思
うようになったのでした。

9 [研究をする奈須先生]

高校を出て東京の大学に進み、イワシの漁場などについて研究しました。

10 [日本鯨類研究所に就職した奈須先生]

大学を出て鯨類研究所入りました。

それから、クジラの海洋環境に関する研究がはじまった。

- 1 1 [地球儀の上に船を乗せ、それに乗る奈須先生]
世界各地の海は、どこでん出かけて調査研究をおこないました。
そして、くるしい調査の時は、いつも小さいとき楽しかった門川町の海のことを
思い出しました。
すると、みょうに元気になるのです。
- 1 2 [冰山を背に、調査船上の那須先生]
南極の海へ 9 回、北極の海へ 4 回。また、北太平洋から南太平洋、そしてインド洋へ
も調査に出かけました。
調査船に乗り、海の上で調査した日数は、2300 日を超え、なかには、半年以上も陸にあ
がることのない調査もありました。
- 1 3 [船上でクジラを解剖調査する奈須先生たち]
解剖調査したクジラの頭数は、6000 頭を数えました。
その種類は、シロナガスクジラ、ナガスクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、セミク
ジラ、ザトウクジラ、ミンククジラ、マッコウクジラなどでした。
- 1 4 [学長から博士号を授与される奈須先生のシーン]
そして、クジラを対象に研究した海洋学で、東京大学から博士号を授与されました。
- 1 5 [地球儀を前に、環境問題を訴える奈須先生]
奈須先生は、以後 40 年間、水産庁の水産研究所を辞めるまで、「行動する学者」であ
り続けました。
また、奈須先生は、『鯨と海のものがたり』という本で、「地球環境の将来を考えよう」
と提言しました。
- 1 6 [おしまい] [帰郷後の海辺の家]
帰郷後、奈須先生は小さいとき育った浜辺に家を建て、執筆や講演にあけくれ、この
世を去っていきました。
お しま い 。

紙芝居 3 題名「くじらとカムリウミスズメの物語」

脚本 鳥巢京一

- 1 [タイトル：前書き]
[むかしむかしの日南海岸の鳥瞰図]
小さなペンギンのような海鳥、カムリウミスズメ。
世界一の繁殖地、宮崎県の無人島、くじらビロウ島。
北極で生まれのカムリウミスズメの大冒険。
一体どんな冒険がまちうけているのでしょうか！
- 2 [北極大陸のカムリウミスズメの大群]
むかしむかし、そのむかし、カムリウミスズメの夫婦が、北極に住んでおりました。
- 3 [カムリウミスズメ夫婦にヒナが誕生したシーン]
ある日のこと、カムリウミスズメにヒナが生まれました。
しかし、その年は、ヒナを育てるにはあまりにひどい寒さでした。
- 4 [カムリウミスズメ夫婦がヒナのこと話しているシーン]
カムリウミスズメのお父さんは、言いました。

- 「はて、どうしたもんかの一。このままでは、ヒナが死んでしまうぞー。」
- すると、お母さんは、
- 「でも、どうしようもないじゃないの！」と、答えました。
- 5 [氷山に乗るカンムリウミスズメの親子]
- そこで、カンムリウミスズメのお父さんは、
- 「氷山に乗って暖かく住みよい場所に行こう！」
- と、考えました。
- さっそく、カンムリウミスズメの親子は、氷山に乗って出かけることにしました。
- 6 [氷山が小さくなっていくシーン]
- しだいに暖かくなるにつれ、氷山がとけ始め、だんだん小さくなっていきました。
- 7 [小さくなった氷山の向こうに大きなくじらがみえるシーン]
- カンムリウミスズメの親子が、こまっていると、誰かが声をかけました。
- 「カンムリウミスズメさん！ カンムリウミスズメさん！」
- お父さんが後ろを向くと、大きなくじらが泳いでいました。
- 8 [カンムリウミスズメの家族がくじらと話すシーン]
- 「今わしを呼んだのは、お前か？」
- 「はい、わたしです。
- わたしは、北の海から子どもを産むために移動している途中です。
- おこまりのようですので、一緒にいきませんか？」
- と、くじらが言いました。
- 9 [くじらの背中に乗ったカンムリウミスズメの親子]
- 「ありがとうございます。ありがとうございます。」
- カンムリウミスズメのお父さんとお母さんは、ていねいに頭をさげました。
- それから、カンムリウミスズメの親子は、くじらと一緒にいくことになりました。
- 10 [突然シャチが、くじらをおそうシーン]
- ある日突然、きれいなサンゴ礁がある海でシャチがおそってきました。
- くじらは、シャチに追い込まれ、鋭い歯で尾っぽをかまれてしまいました。
- 11 [必死で泳ぐクジラのシーン]
- 「ここで死んでなるものか！」
- とつぶやきながら、くじらは歯をくいしばって、サンゴ礁のある海から日向灘めがけて泳ぎました。
- 12 [くじらが息絶えていくシーン]
- 力をふりしぼり日向灘にたどり着いたくじらは、息も絶え絶えに、子どもを産みました。
- くじらが、カンムリウミスズメにむかって「この地は子育てにいいところよ。」
- そう言うと、美々津浜（みみつはま）でとうとう息絶えてしまいました。
- 間もなく、産まれたばかりの子くじらも、あとを追うように息絶えてしまいました。
- 13 [神武天皇が腰掛石に座ってみているシーン]
- その様子を、初代天皇である神武（じんむ）さまが、腰掛石（こしかけいし）にすわって、じっと見ておりました。

1 4 [神武さまが海に向かって棒を指すシーン]

そこで、神武さまは、このやさしい心をもつくじらが、この地にいたことをいつまでも伝えようと、海に向かって棒で、

「エーイ！ エエーイ！」

と、呪文（じゅもん）を唱えました。

1 5 [美女ヶ島ができるシーン]

すると、どうでしょう。

息絶えた親子くじらが海に深く沈み、たちまち黒い岩がのぞかせたのです。

そして、親子くじらが連れ添って泳いでいる形の島ができたのでした。

カンムリウミスズメの親子は、ビックリ！です。

1 6 [「美女ヶ島」で子育てをするカンムリウミスズメたちのシーン]

神武さまは、この島を「美女ヶ島」と名付けました。

カンムリウミスズメの親子は、この「美女ヶ島」を子育ての場所にすることにしました。

1 7 [おしまい]

[夕日のあたる「美女ヶ島」の鳥瞰図]

それからは、毎年北の方から、たくさんのカンムリウミスズメが、

「美女ヶ島」にやってきて、

子育てをするようになったということです。

註 ① カンムリウミスズメ・翼が短く飛ぶのが苦手。1年の大半を海上で過ごす。潜りは得意で、ペンギンのように翼を使って飛ぶように泳ぐ。1975年に天然記念物に指定。

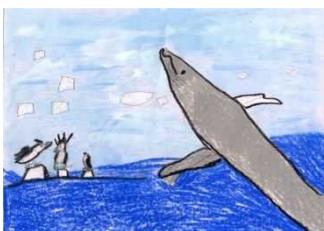
・紙芝居画優秀賞氏名一覧



門川町立門川小学校四年 黒木 康平 同小学校五年 児玉 一樹



門川町立五十鈴小学校五年 樋口 美憂 同小学校五年 近藤 祐未



門川町立門川小学校二年 黒木 駿輔



写真1 ザトウクジラの骨格を並べて説明



写真2 ザトウクジラ骨格に付けられている番号を探している。



写真3 頸椎から順に並べている



写真4 ザトウクジラ骨格展示状況



写真5 漂着時の写真、説明パネル等



写真6 佐土原くじら会、池田会講演



写真7 お魚学習、魚の分類挑戦



写真8 お魚学習、魚の名前が入ったバットに分類



写真 9 紙芝居作成



写真 10 紙芝居作成



写真11 紙芝居発表



写真12 カンムリウミスズメ探索



写真13 波間を泳ぐカンムリウミスズメ（画面中央）



写真14 カンムリウミスズメ（300mm 望遠レンズで撮影）



写真15 中村 豊 先生のカムリウミスズメの話し（帽子の上に実物大のカムリウミスズメ）

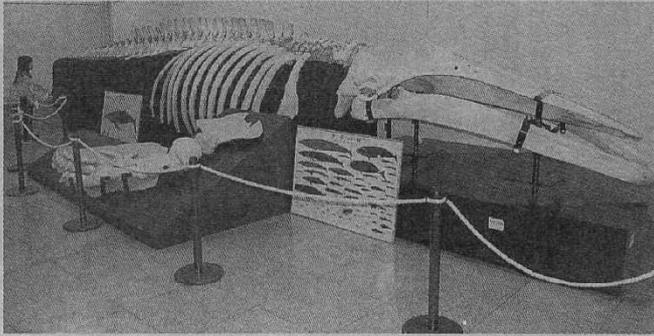


写真16 紙芝居作成、ボランティア学生からアドバイスを受ける



写真 1 7 紙芝居発表

県立総合博物館に収蔵されているザトウクジラの骨格標本



ザトウクジラ骨格展示

22日から門川漁協

「くじら島」紙芝居作りも

小学生募集

宮崎くじら研究会
(栗田壽男理事長は
22日午後1時から門川
町門川尾末の門川漁協
で、ザトウクジラ骨格
組み立て体験とクジラ

の紙芝居作りを行う。
参加する小学生を募集
している。
同町の自然をかし
た環境教育の一環、県
立総合博物館に収蔵さ

れているザトウクジ
ラの骨格標本を運び出
し、同漁協に展示する。
小学生にも骨格の組み
立てを体験してもらう
という。

その後、「くじら島」
をテーマにした紙芝居
を作る。講師は、福岡
市博物館主任学芸主事
の鳥巣京一さん。
定員30人申し込み、
問い合わせは、電話か

で見つかったクジラの
いわば里帰り。ぜひ参
加していただき、「
と研究会は呼び掛け
ている。骨格標本は22
日から6月30日まで、
同漁協で一般公開され
る。

フランスで同研究会の
栗田理事長(宮098
5・53・379)ま
で。当日は画板、水彩
パレット、絵の具、鉛
筆持参。
骨格標本となったザ
トウクジラは平成17年
2月、門川町枇杷(び
ろ)島沖を死んだ状
態で漂流しているとい
るを発見された。雄で、
全長8・7メートル、体重約
7トもあったが、離乳
時期だったとみられて
いる。

標本にするため同研
究会と同博物館が同町
の乙島に3年間埋設。
平成20年5月に掘り起
こし、21年3月に同博
物館で初公開された。
今回は、枇杷島沖

新聞報道1 夕刊デイリー、平成22年8月22日

23 地域 2010年(平成22年)8月24日(火) 毎日新聞

宮崎

宮崎支局 〒880-0804 宮崎市宮田町13-18
電話0985-28-4131 FAX29-3978
miyazaki@mainichi.co.jp
【通信部】
延岡0982-21-2717 都城0986-22-0078

ザトウクジラの骨格組み立て体験

門川町の漁協 小学生30人が参加

県立総合博物館(宮崎市)に骨格標本として収蔵されている体長約8・7メートルのザトウクジラの骨格を組み立て体験会が22日、クジラが見つかった門川町の門川漁協で開かれ、小学生約30人が参加した。子供たちが組み立てた標本は9月5日まで「里帰り」展示される。クジラは05年2月、同町沖合で漂流していた死骸が門川港沖合の乙島に埋設された。08年5月に掘り出されて標本にされ、昨年3月、博物館に収められた。

体験会は「宮崎くじら研究会」(宮崎市)が主催。会の栗田壽男理事長が、県沿岸で見られるクジラの種類や生態を説明した後、子供たちはバラバラになった骨を番号順に運んで組み立てた。門川小5年、児玉一樹君(11)は「骨は思ったより軽く大きかった。クジラのことがよく勉強できた」と感激していた。参加者らはクジラを題材にしたオリジナル紙芝居作りにも挑戦した。【荒木 聡】

ザトウクジラの大きな前肢の標本を持ち、子供たちが体験会に参加している様子。

新聞報道2 毎日新聞、平成22年8月24日

H22.8.30
朝日新聞

ザトウクジラ骨格標本が里帰り 門川、5年前発見 漁協に展示



門川町の枇榔島^{ひろうじま}付近で5年前に見つかった体長約9.5メートルのザトウクジラの骨格標本が同町に里帰りし、門川漁協で展示されている。写真。全国でも少ない全身標本で、NPO「宮崎くじら研究会」が開いた。9月5日まで。

同会によると日向灘ではミンククジラやオガワコマッコ

ウは長く見かけられるが、ザトウクジラは珍しいという。大人は15歳前後まで成長するが、標本はオスの子ども。

家族と訪れた延岡市立岡富小2年の福田真優君は「5年前に見に来たのを覚えてい

る。好きな恐竜と同じくらい大きい」と目を輝かせていた。

新聞報道3 朝日新聞、平成22年8月30日

門川出身の「クジラ博士」

故奈須さん 偉業すごい

宮日 13/8

町内児童が紙芝居製作

門川町出身のクジラ博士・故奈須敬二さん（1931〜96年）の生涯をつづる紙芝居作りが、同町内の児童たち約40人が参加して門川漁協で5日あった。郷土の偉人を身近に感じることが子どもに夢を持ってもらおうと、宮崎市のNPO法人宮崎へじら研究会

究での実績などを子どもらしい絵で16場面を描き上げた。出来上がった紙芝居は高学年の児童たちが発表。草川小5年の和田一希君（11）は門

川にすごい人がいたんだと思うとうれい話を話していた。紙芝居作りを前に、佐土原くしろ会の池田仁志会長（67）が思い出話を披露。奈須さんが、有名なへじらのほしのデザイン選定で審査委員長を務めたこと、海を守るために森の川を守る大切さを強く訴えていたことなどを紹介。子どもたちは興味深そうに聞き入っていた。



クジラ博士・故奈須敬二さんの生涯を描いた紙芝居を披露する児童たち

クジラ博士を紙芝居に

門川

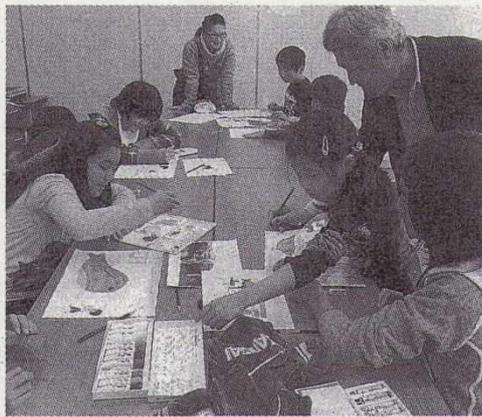
奈須さん をしのび 小学生が作製、業績学ぶ

クジラ研究で全国的に知られ、「クジラ博士」として親しまれながら平成8年10月に65歳で亡くなった門川町出身の奈須敬二さんの生涯をつづった紙芝居作りが5日、同町の門川漁協であった。町内の小学生約40人が参加し、クジラの調査研究や自然環境の保全などに情熱を注いだ奈須さんの少年時代からごくくなるまでの人生を描いた。NPO法人宮崎くしらが発表した。

研究会栗田壽男理事長、宮崎市が日本財団の助成を受けて実施した。紙芝居作りは今年8月に、同漁協で開いたサトウクジラの骨格組み立て体験と一緒に行って以来の回目。

紙芝居の題名は「クジラ少年」。脚本は、福岡市博物館主任学芸員の鳥巢京一さん。子供たちは2、4人の16グループに分かれて作業。鳥巢さんと栗田理事

長、宮崎大学農学部野生物研究会「Wiaa(ワイア)」の学生らに手伝ってもらいながら、奈須さんが日向灘に面した家で生まれたところ、中学生の時に初めてクジラを見たエピソード、大学卒業後に鯨類研究所に入ってクジラの研究を始めたところなど、16場面を描いた。画用紙に下絵を書き、絵の具やクレヨンで色付けした。完成した作品は代表の子供たちが発表した。



が発表した。会場には奈須さんの妻久仁さん(左)も訪れ、子供たちの作業の様子を見学した。

「クジラ博士」として知られた故奈須敬二さんの生涯をつづった紙芝居作りをする子供たち(5日、門川漁協)

見学。紙芝居を見て「よくできていましたね」と目を細めていた。門川小学校6年の坂本麻緒さん(11)は「門川町にもすごい人がいたんだと驚いた。船や海の生き物が好きなので将来は研究してみたい」と話していた。

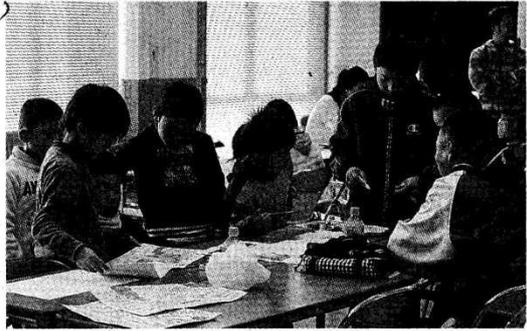
紙芝居作りに先立ち、佐土原くしらの会の池田仁志会長が講話。奈須さんとの思い出話や、奈須さんからアドバイスを受けて制作したという「くじらのほり」や「くじらたみ」などを紹介。魚について学習するコーナーもあった。

栗田理事長は「子供たちがクジラや海の生き物を好きになって、将来は奈須先生のようになってくれたらうれしい」と話していた。

同研究会は来年1月か2月にも紙芝居作りを予定しており、次回は「クジラとカンムリウミスズメ」がテーマ。カンムリウミスズメの観察会も同時に行うという。

夕刊デイリー

紙芝居作りをする参加者（門川漁協）



夕刊デイリー 2011(23)2月14日(A)

門川で紙芝居作り

クジラと国の天然記念物に指定されているカンムリウミスズメを題材にした紙芝居作りが13日、門川町の門川漁協であり、町内の小学生とその保護者ら約35人が制作活動を通じて自然の大切さなどを学んだ。

NPO法人宮崎くじら研究会（栗田壽男理事長）が日本財団の助成を受けて実施。紙芝居作りは、昨年8月と

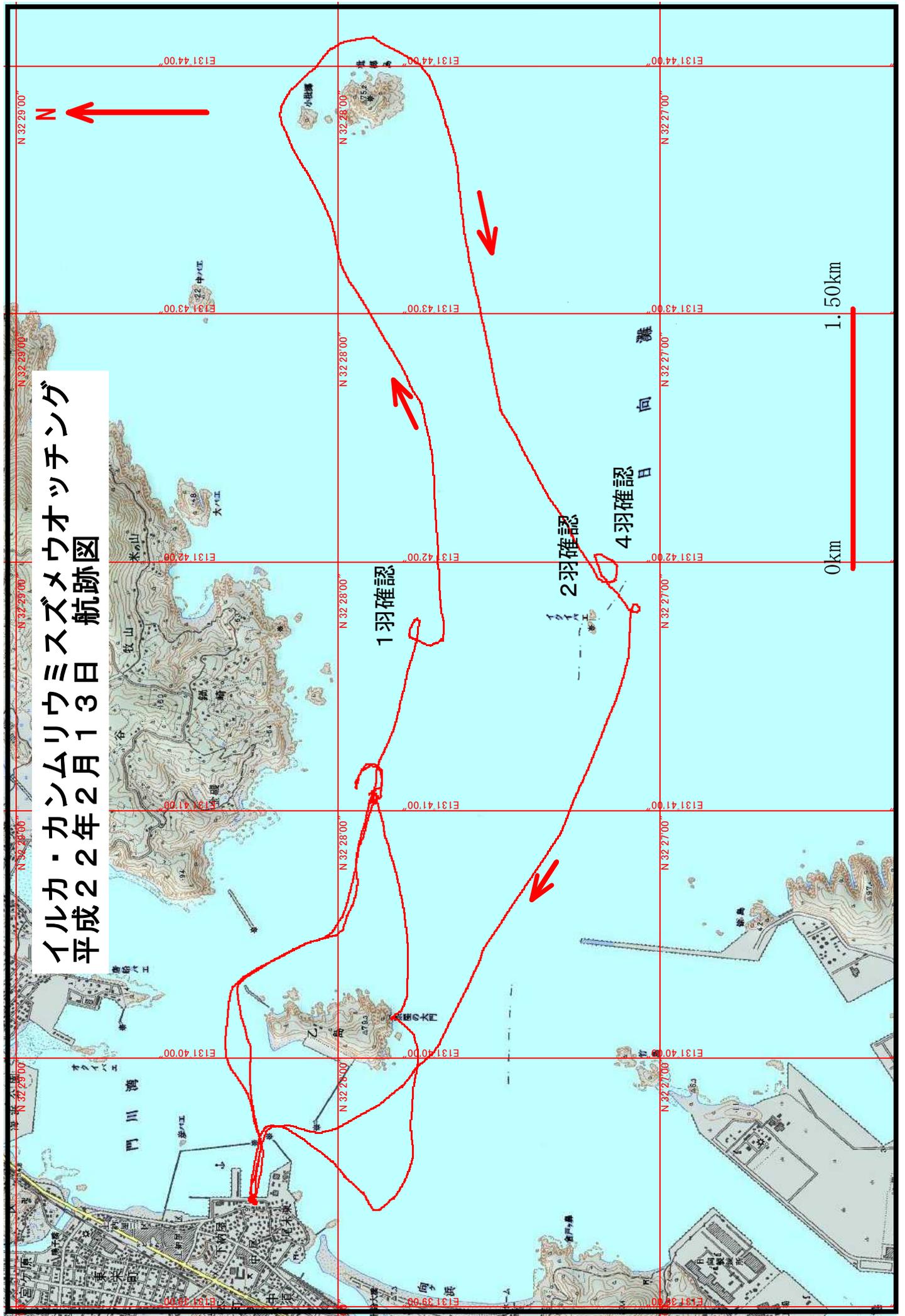
学実験総合センターの中村尊さんと栗田理事長が生誕などについて説明。

その後制作した紙芝居は「クジラとカンムリウミスズメの物語。脚本は福岡市博物館の鳥巣一主任学芸員が手掛けた。

参加者は8グループに分かれ、カンムリウミスズメの夫婦にひなが誕生するシーン、寒い場所から温かい場所を目指す途中で出合った大きなクジラと泳ぐシーンなど17あるシーンを2、3シーンずつ担当。それぞれグループでクレヨンや絵の具で思い思いに描いた。最後に、代表の子供たちが完成した紙芝居を披露した。

栗田理事長は「子供たちは熱心に取り組んでくれました。自然の大切さなどを学んでもらうきっかけになったのでは」とうれしそうに話していた。

イルカ・カヌー・カヌー・カヌー・カヌー・カヌー
平成22年2月13日 航跡図



クジラ・イルカを通じた自然環境学習報告書

発行日 : 2011年3月

編集者 NPO法人宮崎くじら研究会

栗田 壽男

住所 〒880-0942 宮崎市生目台東2丁目22-1

電話 : 0985-53-3798

FAX : 0985-53-3798

Eメール : t_kurita_@0208ybb.ne.jp

URL : http://outdoor.geocities.jp/t_kurita_0208/top.html

「この報告書は競艇の交付金による

日本財団の助成金を受けて作成しました。」